



上田高等学校

関西同窓会報

第46号

2018年(平成30年)

1月17日(水曜日)

編集発行

上田高等学校関西同窓会



第27回総会・懇親会

来賓を迎え48期から84期まで交流を深める

上田高等学校関西同窓会の第27回総会・懇親会は、平成29年9月2日(土)、大阪コロナホテルで開催され、会員・来賓の計34名が参加しました。午前10時からの総会に引き続く講演会は、八十二銀行大阪支店長の片桐伸介氏(84期)が「上田市観光経済の近況」と題してお話されました。引き続いて行なわれた懇親会は、48期から84期までの参加者が交流を深めました。

総会は活動報告・次年度活動計画案、会計報告・次年度予算案を承認。役員人事は講演いただいた片桐伸介氏(84期)に新たに企画委員会に入ってくださいました。お越しいただいた来賓は次のみなさんです。金子元昭様(本部理事長)・内堀繁利様(学校長)・百瀬慎一様(同窓会担当教諭)・上原昇様(関東同窓会長)・武村洋治様(中南信支部顧問)

午後からの懇親会では、金澤信男(67)・荻原靖(74)両氏の司会のもと、来賓のみなさんに挨拶をいただいた他、各期から次の方々にスピーチをいただきました(敬称略)。関口貞雄(48)・六川太郎(50)・大谷永保(50)・吉池南翔(51)・奥紀子(52)・大瀧忠長(52)・荻原宏信(53)・奥彬(55)・大野せき子(56)・土屋博(58)・白井彰彦(58)・伊倉邦人(59)・

岩田司(60)・佐原謙一(62)・松生文子(67)・佐藤則一(70)・伊藤清志(71)・堤宏記(79)

会長あいさつ

昨年の総会で会長に就任してから、早くも一年が経ちました。役員の皆様の多大なご協力と会員の皆様の温かいご支援の下に、ヨチヨチ歩きながらなんとか同窓会の運営にあたってまいりました。かなり時間がかかることですが、やはり若手および女性会員の勧誘が課題と思っています。そして、小職よりも先輩の会員の方々の出席率も上げられたらと思います。関西では同窓会の存在があまり認識されておらず、皆様方のロコミに頼らざるを得ません。また、同窓会を同輩や先輩方の豊富な経験を生かせる場にしたいと思っています。皆様方のお知恵を拝借したいと思います。(竹内俊隆)

トランプ政権をテーマに文化サロン開催

2017年10月14日（土）、大阪コロナホテルにて第11回文化サロンが開催され15名が出席しました。今回のサロンは従来と趣向を変え、桃山学院大学教授・松村昌廣氏をお迎えし、トランプ氏が就任後6か月を過ぎた米国政治の問題を取り上げ、「衰退する米国覇権システムとトランプ政権を巡る権力闘争—メイン・ストーリーとエピソード」の演題で、お話をいただきました。先生のお話は新聞や雑誌などからは得られないことのない大変貴重なものでした。とりわけ、トランプ大統領は、実質経営破綻した米国という会社に就任した社長で、ウィルバー・ロスやムニューチンといった倒産企業の再生に長けた金融家を登用し、米国の破綻処理を進めているとのことのお話は衝撃的でした。講義の後、1時間以上の質疑応答の時間を設け、会員の皆様と松村教授との間で、様々な意見交換を行うことが出来ました。松村先生ありがとうございました。お話の内容は8～9ページに掲載しています。（文化委員長 武舎一夫）



お話をしている松村先生（左）

をにかけていただき関西同窓会の存在をアピールしました。（関西同窓会フェイスブックより）

六文銭の赤備えTシャツを着て参加

10月21日に行われた上田高校同窓会会員大会に参加した土屋広報委員長（83期）は、前年の関西同窓会総会で作製した六文銭入りの赤備えTシャツを着て参加。たくさんの方から声

をにかけていただき関西同窓会の存在をアピールしました。（関西同窓会フェイスブックより）

お悔み申し上げます

荻原 達夫氏（48期）平成28年11月14日
久保田明久氏（48期）平成29年9月5日

上田高等学校関西同窓会 平成29年度 役員・幹事

会長 竹内 俊隆 68期 副会長 金澤 信男 67期

幹事長 隅田修一郎 64期

会計長 荻原 靖 74期 副会計長 尾崎 忍 76期

監事 清水 正博 67期

顧問 石沢 誠司 60期

企画委員会 委員長 尾崎 忍 76期（兼） 副委員長 片桐 伸介 84期

隅田修一郎 64期（兼） 金澤 信男 67期（兼） 上記役員全員

広報委員会 委員長 土屋 俊夫 83期 石沢 誠司 60期（兼）

文化委員会 委員長 武舎 一夫 73期 隅田修一郎 64期（兼）

学年幹事

保屋野文男 43期	小泉 孝雄 49期	半田 仁志 50期	翠川 健彦 51期
大瀧 忠長 52期	荒井 正自 53期	清水 克正 54期	若林 忠之 55期
大野せき子 56期	中嶋 巖 57期	白井 彰彦 58期	伊倉 邦人 59期
山本 努 60期	森田 尚文 61期	黒岩 屹 62期	丸山 文夫 64期
恩田 隆 65期	金澤 信男 67期	知野 武文 68期	伊藤 秀一 70期
中村 智子 72期	武舎 一夫 73期	荻原 靖 74期	尾崎 忍 76期
戸田 有一 79期	土屋 俊夫 83期	近江 裕之 85期	高橋 路子 88期

平成28年度活動報告（平成28年9月1日～29年8月31日）

平成28年

▲9月3日（土）第26回関西同窓会総会・懇親会を開催 会員36名・来賓6名（大阪コロナホテル）講演会「真田父子の高野山追放と幸村の九度山脱出」講師：和歌山信愛女子短期大学非常勤講師 小山譽城先生

▲10月8日（土）上田高校同窓会会員大会に竹内会長が出席。出席者約400名

▲10月29日（土）文化交流会 参加者 15名 『真田昌幸・幸村蟄居の地、九度山の真田関連史跡見学』

▲11月19日（土）中南信支部第23回総会に竹内会長が出席。出席者60名弱

平成29年

▲1月17日（火）関西同窓会報第44号発行。会報を電子化しメールのある会員にPDFファイルを送信。紙の会報を希望する会員にはコピーした会報を送付。

本部および他支部には、PDFファイルを送信。

▲1月21日（土）第1回役員会。出席者6名。

▲2月12日（日）第10回文化サロンを実施 参加者：24名。会場：ホテルアウィーナ大阪 206号室 テーマ：「纏向(まきむく)遺跡の絹が語る古代日本の養蚕」講師：奈良女子大学教授 中澤隆先生

▲5月14日（日）第2回役員会。出席者7名。

▲6月24日（土）関東同窓会第56回総会に竹内会長が出席 出席者約300名。

▲7月7日（金）長野支部 七夕会に祝電

▲7月17日（月）関西同窓会報第45号発行 発行部数は500部（関西同窓会会員430部、事務局用70部）本部・関東同窓会・北海道同窓会・各支部へはPDFファイルを送付。

平成29年度活動計画（平成29年9月1日～30年8月31日）

◆平成29年9月2日（土）に第27回総会・懇親会を開催。会場：大阪コロナホテル 総会：2階215号室 懇親会：200D号室 講演「上田市観光経済の近況」講師 八十二銀行大阪支店長 片桐伸介氏（84期）

◆広報委員会編集による関西同窓会報を年2回（1月17日、7月17日）発行する。1月号については、PDFファイル（ワード）を作成し、メールのある会員に送付する。紙の会報を希望する会員には印刷した会報を送付する。（土屋広報委員長、石沢顧問）

◆文化委員会主催による文化事業を年2回開催し、会員相互の交流を促進。

◇第11回文化サロン 平成29年10月14日（土）13:00-16:00 テーマ「衰退する米国覇権システムと

トランプ政権を巡る権力闘争」講師 桃山学院大学法学部 松村昌廣教授（国際政治学）会場 大阪コロナホテル202号室 15名参加

◇春の文化交流会 平成30年4月7日（土） 卑弥呼伝説の里・纏向遺跡・箸墓古墳見学と春爛漫の桜の名所、大神神社・長谷寺参拝（武舎文化委員長企画）

◆上田高校同窓会本部会員大会、関東同窓会総会、中南信支部総会などに代表が出席し、交流を深める。

◆母校社会講座への協力 29年度は該当者無し

◆FACEBOOKなどのIT技術により会員交流の場づくりの拡充を行う。（土屋広報委員長、他）

◆上田高等学校の生徒が文化・スポーツなどの分野において、近畿地区で活躍する場合は応援する。

平成28年度 会計報告（単位：円）

収支計算書(平成28年8月30日～平成29年8月29日)			
収入の部		支出の部	
前期繰越	340,871	総会費用	340,507
総会費収入	297,500	会報費	181,207
年会費	130,000	通信費	0
特別年会費	21,000	渉外費	100,900
雑収入	153,920	事務費	20,450
利息収入	2	雑費	15,857
会報電子化対策費本部負担金	0	予備費	0
次期総会参加費前納金	28,000	次期総会参加費繰越分	28,000
		次期繰越	284,372
合計	971,293	合計	971,293

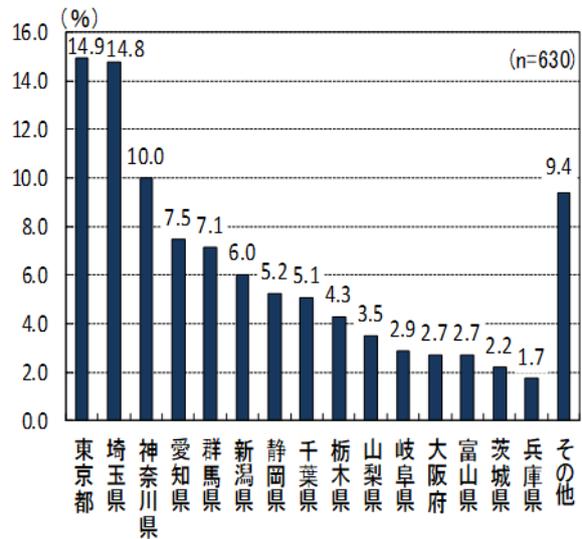
「上田市観光経済の近況」～大河ドラマ「真田丸」の経済効果～

八十二銀行大阪支店長 片桐 伸介

大河ドラマ館、103万人が来場

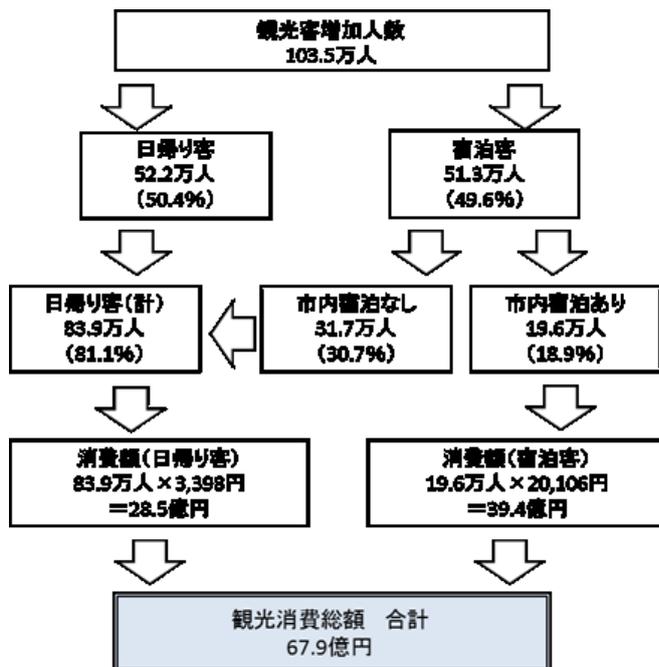
NHK大河ドラマ「真田丸」は2016年1月～12月まで全50回放映され、地上波平均視聴率は16.6%を記録し、上田城内に開設された大河ドラマ館の来場者数は103万5,208人と過去最高を記録しました。長野経済研究所のドラマ館でのアンケート調査によると、来場者の約8割が長野県外居住者で、東京都からの来場者が最多で2位は埼玉県、因みに関西は大阪府12位、兵庫県15位でした。

来場者の21.4%は、旅行会社のツアーによる団体旅行で、ツアー以外の来場者は78.6%で、個人旅行でした。ツアー旅行の多くは高齢者で、個人旅行は「2～3人」が最多で約5割、次いで「4～5」人が約2割でした。旅行日程は、「日帰り」と「宿泊」が約半々でした。宿泊地は「上田市以外の長野県内」が56.1%で最も多く、次いで「上田市内」が43.1%、「長野県外」が16.5%でした。宿泊施設として主に利用されたのは「観光ホテル・旅館」が最多でしたが、上田市内においては、「ビジネスホテル」の割合が最も高くなりました。



県外からの来場者（都道府県）

上田市内における観光消費総額は67.9億円



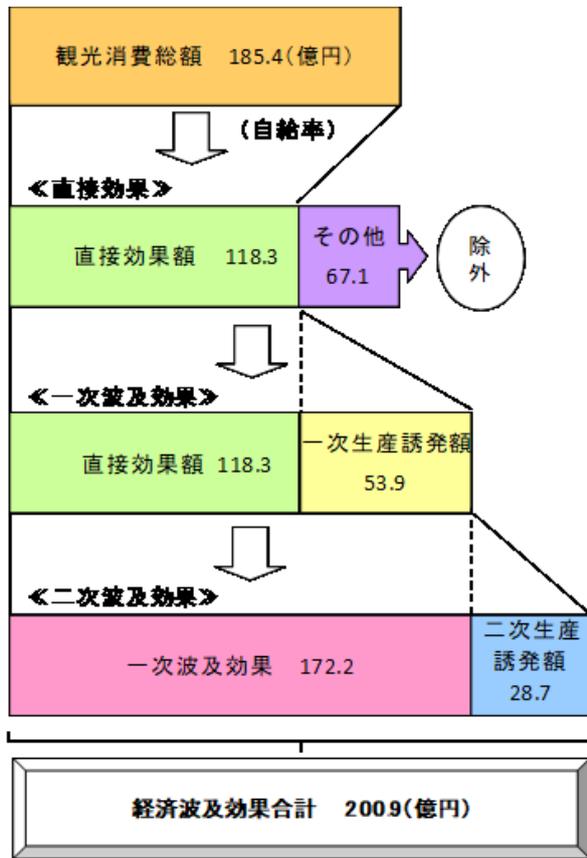
上田市内の観光客数と観光消費額

長野県における観光消費総額は、アンケート調査した一人あたりの平均額と、真田丸の影響を受けた観光客数を乗じて算出し、調査した消費額は「宿泊費」「飲食費」「土産代」「その他」「交通費」の5項目です。観光客数は、大河ドラマ館の年間来場者数である103.5万人としました。来場者を日帰り客と宿泊客に分け、それぞれに一人あたり消費金額を乗じた結果、長野県における観光消費総額は185.4億円、上田市内における観光消費総額は67.9億円となりました。

上田市内での1人当たりの平均消費額は、日帰り客が3,398円、宿泊客が2万106円。今回の調査によると、お土産の人気ベスト3は真田関連グッズ、銘菓、真田

関連菓子となりました。一方、飲食費は、上田市の比率が日帰り客49.1%・宿泊客55.1%と半分近くにとどまりました。来場者の多くは蕎麦を食べたいと思っていたが、蕎麦は上田市だけの特

産でないことから、結果として飲食費の他地域流出につながったものと推察されます。



※ 四捨五入の関係で合計金額は一致しない

観光消費総額をベースに算出した長野県にもたらした経済波及効果は、「直接効果額」「一次生産誘発額」「二次生産誘発額」合計の200.9億円と推計されました（算出には「平成23年長野県産業連関表」を使用）。

想定以上の経済波及効果

地域経済への影響を総括すると、①大河ドラマ館は想定以上の集客ができたこと（開館当初の市の年間目標は50万人に対し、年間で103.5万人を集客）、②来場者の約8割が県外客ということで多額の「外貨」を上田市にもたらした事等、大きな効果がありました。

一方、飲食費の他地域流出から「地域独自の食」開発・ブランド化など、今後の観光振興を図るうえでの課題も残りました。また、アンケートでは、83.8%が上田市への再訪を希望しています。「再訪希望」は観光の満足度と関係しており、この高い比率を出すことができたことは一つの成果。今後は「真田丸の魅力」から「上

田市の魅力」へ、そして地域経済活性化につながる仕組み作りが必要になるでしょう。

地方創生の切り札の一つが「観光」

国は、「地方創生の切り札」として「観光」を挙げています。なぜ観光なのでしょう。一言でいうと「観光」は、非常に多くの産業と結びついているからです。「観光需要の増加」⇒「他産業の生産増加」⇒「生産のための原料需要等増加」により、需要や生産が連鎖的に増えていくと言われています。更に観光は現地を訪れなければ消費できないため、地方に人を呼び込み経済を活性化させる効果があります。

2015年3月に北陸新幹線「長野駅—金沢駅間」が開業、延伸から2年半経過しました。16年度における上田駅の乗降者数は12年度比で約230人（1日平均）増加し、定期券利用の比率も高くなっています。観光などの一時的移動手段に限らず、住まいや働き方にも影響しています。また、新幹線各路線・区間別の平均通過人員をみると、「高崎駅—長野駅間」は急激に増加しています。代わりに「高崎駅—越後湯沢駅」が減少しており、新潟県から長野県を通る「新たなヒトの流れ」ができたことがうかがえます。新幹線の駅と駅はつながったが、そこから先の移動手段として循環バスなど「2次交通」の整備を求める声も多く、新たな営業拠点づくりや北信越全体を広域の経済圏として機能させる発想が不可欠になっています。新幹線が結んだ北信越の企業や自治体の絆をいかに太くしていくかが、今後の課題でしょう。



お話しする片桐氏

いま教育に必要な哲学と人間観

上田高等学校長 内堀 繁利

「哲学」という言葉を聞くと、行政の人たちと呑み歩いた日々を思い出します。県の教育委員会に初めて勤務した40代の頃です。特に仲の良かった人とは、夜の10時過ぎから呑み始めるといったこともよくありました。酔ってくる、施策について「哲学がないんだよな、哲学が」などと語り合ったものです。形の出来不出来よりも、そこに想いが込められているか、それで長野県や県民が本当によくなるのか、といったことの方が重要だという考えで一致していたからです。



いま、MADE IN JAPAN が大ピンチです。未来永劫潰れることはないだろうと思われていたような大企業を含め、日本の企業が誇っていた国内外からの絶大な信頼を喪失しかねない危機に瀕しています。一体どうしてしまったのだろう、日本ってこんな国だけ、という、悲しさ、空しさが湧いてきています。

人はしばしば「環境の動物」とか「慣れの生き物」と言われます。目的のための手段がいつの間にか目的化していたり、新しいことをしたくないばかりに必死で理由を考えたりします。

前述の企業は、立ち上げ当初には、「世のため、人のため」という、松下幸之助や本田宗一郎などに連なる哲学があって、それで大きくなってきたはずですが、にも拘らず、いつの間にか、利益や納期を優先し、こだわりを捨て、結果、地位も名誉も信用も失うことになってしまったのです。

こういった社会状況を見て思うのは、机上で空論を捏ね回すのではなく「人間とはどういう生き物なのか？」という人間観に基づくこと、「そこに哲学（理念）はあるのか？」と考え続けることが大事なのではないかということです。

現在、国では教育を大胆に変えようという動きが進められています。大学教育・高校教育・大学入試の3つを一体として改革しようという高大接続改革がそれであり、教育の中身である学習指導要領の全面改定がそれです。本校が指定を受けたSGHは、この改革の先頭を走るプログラムであり、実際に本校は、おかげさまで、これまで積み上げてきた歴史と伝統に加えて、先進的教育実践校として全国的な注目を集めています。この動きを押し進める上でも、哲学と人間観を大事にしていかなければならないと考えているところです。

最後になりましたが、関西同窓会の皆さんには校長として3年間大変お世話になりました。総会の度に、皆さんの母校に対する強い思いと情熱的な語り口から刺激を受けました。皆さんのますますのご発展とご健勝を祈念し、あわせて母校への一層のご支援をお願い申し上げて、少々早いですが、3年間の御礼とさせていただきます。

3年目を迎えたSGH 順調に進む

SGH係 福井 克実

1:はじめに

上田高等学校は、「長寿県NAGANOから世界のいのち・健康を支えるグローバルリーダーの育成」を研究開発テーマとしSGHに指定され3年目をむかえました。このプログラムを経て、研究発表スキルの向上した生徒が育ち、校外の各種プレゼンテーションに自主的に参加する機会が増え、学校の壁を越え、内外の専門家と意見交換できる機会が増えています。

2:課題研究

1年生グローバルスタディⅠでは、「課題解決型学習」に視点をおき、解決策を立案するスキルを育成しています。県内フィールドワークは、各地8コース（佐久大学、佐久総合病院、信州大、青木小、筑波大学山岳科学センター菅平高原実験所等）で研修をしました。フィールドワークを契機に自らのキャリアを定め課題設定を個人ですすすめます。

2年生グローバルスタディⅡでは、課題研究を進め、9月首都圏フィールドワークでは10コース（東京外大、筑波大、東京医科歯科大、早稲田大、慶應義塾大、上智大、立教大、昭和大学等）で研修し、約40名が課題研究発表をし、専門家より助言をいただきました。またグローバルスタディⅡ英語では、英語スキルを学び、台湾研修旅行にて英語による意見交換をいたしました。

優れた探究力のある生徒は、筑波大坂戸高ポスターセッション、立教大関東甲信越静発表会、SGH甲子園（関西学院大学）に出場しています。来たる2月3日（土）上田高等学校SGH報告会を上田市文化センター・中央公民館で、2年生全員がポスターセッションをいたします。また高校1年2年3年および大学生がプレゼンテーションいたします。是非お出かけ下さい。

3年生グローバルスタディⅢでは、各自の課題研究をローカルにアクションできる内容に組み換え研究を継続しました。SGH集大成である「北陸新幹線サミット」（関東北信越地区SGH高校課題研究発表会）を6月に主催しました。東京と金沢の中間に位置する上田高校に沿



北陸新幹線サミット（2017.6）

線高校生（福島県立ふたば未来学園高、東京学芸大学附属国際中等学校、筑波大学附属坂戸高、石川県立金沢泉ヶ丘高ほか）が集い、日頃の探究活動の成果を共有し、12高校28グループ生徒84人、教職員一般43人が参加し、プレゼンテーションとディスカッションをいたしました。現在急速に進行している新しい学力観にもとづく、高大接続（大学入試制度）に本校は先駆けて対応しています。将来必須の大学入

試におけるeポートフォリオ、「学びの報告書」「学びの計画書」に対応した進路指導がはじまりました。そのためSGH1期生（現3年）は、プレゼンテーションを重視する大学入試にチャレンジする生徒が増えています。

3: 海外研修



ボストンスタディツアー（2017.3）

11月、4泊5日で2年全員が台湾研修旅行を実施しました。苗栗、中壢、台中大里、台中大甲の4高校で交流し、台湾フィールドワークを通じて課題研究テーマを深めました。また中国香港高校生が来校、香港高校生5名が1週間授業参加しました。このような異文化同世代との交流を通じて、語学力とコミュニケーション能力を高め、校内でもグローバルマインドを養っています。

3月フィリピンスタディツアーは20人が参加しました。路上の子どもたち、パヤタス（ゴミ山）事業地研修、日本の課題について英語で発信をし、意見交換をし、最終日は大阪大学宮脇准教授らを前に現地報告会を実施しました。帰国後、JICA、国連大学ほかで多くの研究報告をしました。またはじめてボストンスタディツアーを開催し、ハーバード大学、マサチューセッツ工科大学にて世界の最先端の学問を学び、日本の課題をプレゼンテーションしました。また10月MITポールルケッツ博士が来校し、先端的な建築デザインについて講演していただきました。

4: まとめ

このようにSGH3年目は順調に進んできました。また昨年度東京外国語大学と高大連携協定が締結されました。これからグローバル人材育成を目的とし、大学教授や大学生、国際機関とコラボレーションし、課題研究と海外研修を進めていきます。今後とも本校SGH活動にご期待下さい。

衰退する米国覇権システムとトランプ政権を巡る権力闘争

桃山学院大学教授 松村昌廣先生のお話から

2016年秋のアメリカ大統領選挙でトランプ氏が当選し、2017年1月からトランプ政権が発足しました。関西同窓会では文化サロンで、松村昌廣先生に、発足後のトランプ政権についてお話いただきました。この文章は先生のお話を編集部でまとめたものです。(文責：石沢誠司)

米国の覇権システムについて



トランプ大統領

覇権システムは軍事力がもとになるが、軍事力を支えるのは経済力。両者はどちらも大切です。今ある軍事力が経済力を支え、技術開発とそれを支える材料・装備や、人を使うには経済力つまりお金がかかる。現在は、核戦争は絶対にない、ということをもとにやっている。となると通常兵力の話になるが、アメリカに盾突ける国は当分ありません。中国も力をつけていますが、グローバルなレベルで考えると現在のところ、アメリカに勝てる国はありません。

アメリカの覇権が完成して起こったこと

大戦争がないということをもとにすると経済はコスト競争になる。最も生産が安くできるところに行く。これはアメリカの覇権が完成して起こったことで、そうすると産業の空洞化が起きる。その結果、ご存じのように中産階級の没落が起きる。日本やアメリカ、ヨーロッパがそうです。これは非常に深刻です。1980年代～90年代にかけてアメリカのスーパーマーケットの状況と今の状況を見ると相当な差がある。当時はうまいものはなくても安いお金でいっぱい食えた。今スーパーに行くと、大きな太ったアメリカの白人が肉を買うのに躊躇している人がある。生活のコストがどんどんかかっている。また貿易赤字も増えている。

その結果、政府も民間部門も家計部門も債務を負った。借金の量はどのくらいかと言うと、例えば日本の債務状況はGDPの200%を超えと言われる、ひどい状況とされています。

表面上そうですが、アメリカの状況はそんなものではない。どれぐらいあるかという表に出ているだけでもGDPの4倍ぐらいある。しかもアメリカは日本と違って貯金がない。貯金がなく4倍です。アメリカ人の専門家の予測では幅があるが、中をとると10倍くらいと言われている。そうすると年収の10倍の借金を返さなければならない。

アメリカの経済は実質的に終わっている。これが語られていない大きな真実です。だからアメリカは企業でいうと倒産した巨大な会社みたいなものです。この認識が大事だと思う。しかし、アメリカは資金繰りという面では回っている。逆に言うと資金繰りが回らなくなると途端につぶれる。米ドルは基軸通貨ですから金融力を使って他の国々ではできない操作をして維持している。

トランプ氏は破綻処理にやってきた社長

実はトランプ政権というのは、こんなアメリカの状況を「どうするんや」と言って生まれた政権です。企業に例えると分かりやすいが、トランプ氏は実質破綻した会社に破綻処理するためにやってきた社長みたいなものです。アメリカを会社とすると、アメリカの事業内容は借金して回しているがストックが行きとどまっている状況だから、これはリストラがいる。つまり縮小再編です。要らないところは切る。負債の分は切る。採算部門は残し、可能性のある新規の事業を立ち上げる、というようなことをやってゆかなければならない。コアな部分を残して、あとは全部投げる。東芝のようなことをしなければなりません。そうすると今のようにグローバルな影響力をもった覇権は断念せざるを得ない。トランプ氏が大統領選で言ったのは

「場合によっては覇権を断念しますよ。少なくとも縮小再編しますよ」ということです。

大統領就任後から現在まで

今年（2017）1月の就任演説は驚くべき内容でした。革命宣言とかクーデター宣言だった。要するにエスタブリッシュ（既存体制勢力）に対する宣戦布告をした。つまり「ここにいる全員に責任がある」ということです。だから宣戦布告された人々は一致団結して反トランプになる。これが大統領選挙このかた現在までの状況です。

トランプ氏が反トランプ勢力にどういう対処方法をとったか。相手が一致団結したらトランプ氏はかなわない。反トランプの利害はいろいろあるので個別にそこを分断しています。今年2月にはマイケル・フリント大統領補佐官が辞任し失脚した。実情は4月に暫定予算を議会に通してもらわなければ困る。また、共和党の対ロシア強硬派を懐柔するために辞任させた。

4月には訪米した中国の習近平総書記がトランプ大統領の別荘で会談している最中にシリアに巡航ミサイル・トマホークを撃ち込んだ。これは北朝鮮に対する威嚇です。この行動でトランプに反対していた共和党の一部勢力がコロッと態度を変えました。

4月末に暫定予算が切れたとき、懸念された政府機関の一部閉鎖を回避するため、共和党には国防費増額を認め、野党・民主党に大幅に譲歩しメキシコ国境の壁建設など政権公約を先

送りし成立させました。

8月になると、10月から始まる暫定予算を議会を通すため、大統領首席戦略官のステイブ・バノンを辞任させました。そして共和・民主両党の議会指導者と会談し、3カ月の時限付きで暫定予算を編成することで9月に合意しました。8月段階では決定的にむずかしいと思われていた状況でしたが、9月初めにパッと局面を変えてしまった。現在までのトランプ政権は、かなりがんばっている。

綱渡りの政権運営の裏にあるもの

トランプ氏は綱渡りに近い状況で、政権発足以来やっています。トランプ氏は平和主義者ではなく破産しているアメリカを引き受けたので無駄な出費はできない。そういう意味で言うと彼は思想的なことではなく、銭のかかることはしたくないし、できない。戦争すると立て直しができない。今の北朝鮮情勢で彼は戦争をやりたくない。しかし、彼の政権でやらないといけなくなるかも知れない。本音はやりたくない。

大きくみると、アメリカは世界的帝国ですから内部の核心部分における派閥の争いが世界を動かしていると見ればよい。アメリカが全く無謀に動いているわけではない。覇権システムで動いているから、国際問題・国際情勢の変動というのと、ワシントンDCの中の争いとは表裏一体の関係にある。また、トランプ政権の中の派閥抗争と、トランプ政権と議会の確執はまったく別の現象ではないのです。

同盟国の協力を得るには内向き政策は逆効果

司会兼コメンテーター 竹内 俊隆（68期）

松村先生によると、アメリカの累積財政赤字は危機的な状況にある。その破綻処理のために、トランプが乗り込んできた。アメリカの縮小再編は待ったなしなので、世界的な関与も縮小する。日米同盟を外交・防衛政策の基軸とする日本にとっては、由々しき事態であり、中国にとっては絶好の機会到来になる。

小職は、松村先生ほどの危機意識をアメリカ経済に持っておらず、その潜在的な技術革新能力は侮れないと思っている。基軸通貨国なので、

他の諸国にその負担を課すことも可能である。

しかし、覇権維持のためには、日本などの同盟国の協力が必要である。アメリカの縮小再編が不可欠ならば内向きの「アメリカ第一主義」にせざるを得ないが、同盟国の協力を得るためには内向きの政策は逆効果となる。どちらを優先するかになる。松村先生によると「アメリカ第一主義」にせざるを得ないので、「現在までのトランプ政権は、かなりがんばっている」という評価になる。

「上を向いて歩こう」と永六輔さんの信州疎開

関口 貞雄 (48期)

平成28年(2016年)7月7日に“大往生”された永六輔さんは、マルチ・タレントとして活躍したが作詞家としても才能を発揮、坂本九さんが歌った「上を向いて歩こう」は代表作で広く愛唱され世界的にもヒットした。

この歌は涙をボロボロ流して歌いなさい

フォーク歌手・高石ともや氏は、「ある年、少年少女合唱団とステージで「上を向いて歩こう」を普通に歌った時のこと、永さんが私に、『高石君、何故皆はこの歌を明るく笑いながら歌うの？ この歌の詩は12歳の少年が辛くて涙が止まらない思春期の悲しい詩なのに』と語り、信州に疎開した時の話をしてくれ、『ともや！ 君が歌う時は涙をボロボロ流しながら歌いなさい』と耳元での静かな命令に、ハイと返事をして自分の心にしまいこんだ(2016年11月29日の毎日新聞夕刊)と書いている。

永六輔さんは昭和7年4月、東京、浅草の最尊寺住職の息子として生まれた。国民学校6年生になった昭和19年4月、学童疎開で北佐久郡南大井村(現小諸市)に移り住んだ。東京大空襲のあった最悪の時期であった。翌年の昭和20年4月、永さんは上田中学校へ進学した。その疎開者グループからは只一人合格し、入学したものと思われる。通学は宿舎から朝晩“ひとりぼっち”で小海線の三岡駅まで歩き、乗車して小諸駅で乗り換え信越線で上田駅まで行き上田中学校へ通った。戦時下の食糧難の折、ひもじい思いをしたに違いない。晴れて青空に雲があった日は“上を向いて歩こう”、夜遅くなって星空の時は“見上げてごらん夜の星を”と自分に言い聞かせて登下校したのでしょう。

信州には辛い、悲しい思い出ばかり

私達48期の同期生は平成7年に文集「松尾が丘」を発売した。そこに古沢襄君が投稿した一文に、永六輔さんとの出会いを記している。「私が共同通信社金澤総局長であった昭和45年のこと、北国新聞社と共催で文化講演会を開

催し、永六輔さんを講師として招いた。終了後、ホテルのバーで雑談中に永さんは次のような悲しい、辛い体験を話してくれた。



関口貞雄さん

『昭和20年5月、上田中学校へ入学した直後のこと、4、5年生が勤労動員で名古屋の軍需工場へ行き、留守中の出来事であった。残った報国団立命会(地域毎の縦組織)の2、3年生が1年生を集め、“気合を入れてやる”“制裁だ”と称して何の理由もなく殴った。日頃から上級生達から日常的に暴力行為を受けていたので、その腹いせに新入生を殴ったのである。永さんは私に“信州には辛い、悲しい思い出ばかりで、楽しい良い思い出は一つもありませんでした。貴方の郷里の悪口ばかり云ってすみません。”と語った』

昭和20年8月15日終戦となり、永さんも東京の父母の許へ帰った。永さんの信州嫌いの原因を作った責任の一端は48期の仲間にもあったかと思うと、母校、同窓会に対し何か後ろめたい感情が起る。私には首謀者、加害者はほぼ推定できるが、最早この世にはいない。晩年になり永さんが母校と和解し一度母校を訪れたと聞き、ほっとしたことを思い出す。

小諸でよく訪れた「懐古園」も歌のイメージ

後年、或るシンポジウムに作曲家・小林亜聖さん等と出席した永さんは、「上田中学から下校の途中、小諸駅で小海線との接続待時間によく懐古園を訪れました。後年になってその時を思い出して「上を向いて歩こう」のイメージが浮かんだのです」と述べたという。その後、小諸市側から「上を向いて歩こう」の歌碑を懐古園内に建立する提案がなされ、寄付も集まったが、何故か途中で永さんが承諾せず中止となったと云う。残念なことであった。(2017.9記)

～戦争に翻弄された学校生活とその後の人生～

中村 廣夫 (44-5期)

私は上田市（旧浦里村）仁吉田出身です。今年（2017年）90歳になりました。人生も終焉に近づいていますので、昔の様子を思い出し一筆いたしました。



昭和15年に上田中学に入学。当時は支那事変（後に日中戦争）が続いていたが戦勝ムードで学校も昔のバンカラと呼ばれた服装だった。2年生の12月、大東亜戦争（後に太平洋戦争）が大本営から発表されたが、進軍進軍の戦勝ニュースばかりだった。3年生になると学業が様変わりした。養蚕を止めて桑畑にさつま芋（代用食用）を植えるため、桑の株抜きに勤労奉仕に駆り出された。秋には軍隊に応召された家庭の稲刈りの奉仕にと、勉強する時間が減り、4年生になったら服は国防色といって土色になり、詰め襟がなくなり、靴は地下足袋でズボンは巻脚絆を巻いての教室だった。（上の写真：4年生の時、堀の前で）

東京大空襲に遭遇

5年生になると、1学期の終わり7月頃に学徒動員で名古屋市の住友軍需工場に派遣された。9月になって受験していた東京高等商船学校専科の合格通知がきて、学校で2名合格したので二人で上京した。11月頃からアメリカの偵察機が飛んでくるようになり、翌年3月まで空襲警報は何回かあったが、3月10日の晩、一挙に大空襲となった。学校と寮は深川区中島町の隅田川の河口にあったが、周辺の本所、深川は全焼した。翌朝、

学校に行って3階の屋上から見ると10キロ以上先の浅草が見えた。家々は全焼して門柱だけが残り、隅田川には水死体が伏して悲惨な状況だった。

商船学校は昭和20年8月の終戦と同時に閉鎖された。そこで郷里に帰り中学校で卒業証書をいただいた。9月に商船再開の通知がきたので上京、学校に行ったら200名だった生徒が50名に選考されて1組になっていた。それから座学を約1年して、実習は練習船の機帆船・海王丸で満州からの引揚者の輸送、コロ島一博多間を半年した。

昭和22年に卒業したが、船はほとんど沈没して乗りたい商船はなかった。再び郷里に帰って農作業を手伝い2年ほど家に居たが、次男坊なので24年頃に上京、製紙工場の製紙販売店に勤務した。

初めて大阪の土を踏む

東京の店から大阪の店に出向、昭和27年に初めて大阪の地を踏んだ。翌28年に戻るよう指令がきたが、同族会社で居心地が余りよくないので退職、大阪で浪人となった。たまたま知人の紹介で大阪ガスの試験を受けたら採用の通知があり入社、3年間ガス代の集金業務をしてから、一般内勤の試験を受けて何とか専門職についた。居心地がよくて60歳定年となる昭和63年3月まで勤めた。定年後は趣味のカラオケ教室に通い、カラオケサークル、社交ダンスなど25年間遊ばせてもらった。現在、ケアハウス住まいを



最近の中村さん

思えば私達44回卒業生は戦争に翻弄された学校生活だった。したがって学校との絆は弱く、卒業証書を持って歩いただけという感がする。でも勉強して受けた知識は有難く思っている。

<春の文化交流会>

4月7日(土)に開催

卑弥呼伝説の里・纏向^{まきむく}遺跡・箸墓^{はしはか}古墳見学と 春爛漫の桜の名所、大神^{おおみわ}神社・長谷寺参拝

本年度の文化交流会は、近年の発掘調査から卑弥呼伝説の里ではと全国から注目される纏向(まきむく)遺跡・箸墓(はしはか)古墳・大神(おおみわ)神社を訪問し、午後から西国三十三所の名刹長谷寺参道の湯元井谷屋での懇親会の後、長谷寺を参拝いたします。大神神社近くの大美和(おおみわ)の杜、と長谷寺は奈良県を代表する桜の名所として名高く、この時期は満開の桜を楽しめるかと期待しております。多くの会員の皆様のご参加をお待ちしております。



纏向遺跡発掘現場



大神神社大鳥居と三輪山

[日 時] 平成30年4月7日(土) 9時45分～16時頃

[集合場所] JRまほろば線(桜井線)巻向駅改札口

[集合時間] 9時45分 時間厳守

[交通案内]

JR大阪駅 07:58(大和路快速)乗換え12分 JR奈良駅発 09:08 巻向駅着 09:30

JR京都駅 07:24 乗り換え28分 JR奈良駅発 09:08 巻向駅着 09:30

大阪・和歌山方面から JR大和路線王寺駅発 09:01 高田駅乗り換え 巻向駅着 09:45

[行程]

午前中: 纏向遺跡 — 箸墓古墳 — 大美和の杜 — 大神神社

12:00頃: タクシーにて桜井駅へ移動 12:29: 近鉄桜井駅発 12:37: 長谷寺駅着

同駅から井谷屋のマイクロバスにて昼食会場へ移動 — 昼食 — 長谷寺(解散16:00頃)

[会費] 5,500円(当日集金します。昼食代、交通費、長谷寺拝観料、ガイド代等含む)

[持ち物] 雨具、健康保険証、飲み物、薬等

[注意事項] 午前中3-4キロ程歩きますので、歩きやすい靴でご参加下さい。

雨天時: 開催します。台風等により開催不可能の場合は当日朝8:00までにご連絡致します。

[参加申込み] 3月10日(土)までに E-mail、FAX、または封書にて、お申し込みください。

[申込み先] 〒635-0013 大和高田市昭和町8-11-226 武舎 一夫 宛

E-mail: pretrejean@nifty.com (TEL: 0745-53-1237)

FAX: 078-583-5775(隅田幹事長宛) [連絡先] 090-9851-5778(携帯)

[午後からの参加] なお、今回は午前中に3-4キロほど、一部山道を歩く予定です。ウォーキングに自信のない方は、長谷寺参道・井谷屋での懇親会以降の参加も可能です。午後のみ参加の方は、井谷屋に12:45頃までにご集合ください。会費は4,000円となります。午後のみ参加の方はその旨ご連絡ください。